

告辞

本日晴れて東京農工大学より学位を授与された皆さん、おめでとうございます。これまで陰になり日向になり支えてこられたご家族の皆様をはじめとした関係各位にも心よりお祝い申し上げます。ここにこうして平成23年度9月の卒業式・修了式を挙げる運びとなりましたことを、教職員一同大変嬉しく思っております。

本日学位を取得されたのは、工学部の学士が2名、工学府の修士が3名、博士が5名、農学部が2名、農学府の修士が15名、生物システム応用科学府の修士が1名、博士が4名、連合農学研究科の博士が13名、論文博士が6名の計51名となっております。これら新たに学位記を手にした皆さん、これまで様々な困難や苦勞があったかと思いますが、乗り越えてきたのは自分ひとりの力ではありません。ご家族やご指導いただいた先生方などに対し、あらためて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思っております。

これから皆さんは新しい人生の局面をいくつも迎えます。当然、周囲からは大学や大学院を終えた者としての役割や行動を求められます。迷うことも色々あるでしょう。そのような時、意識して考えてほしいことがあります。

皆さんはジェフリー・ベゾス(Jeffrey Bezos)という人をご存知でしょうか？ 皆さんも少なくとも一度は利用されたことがあるであろう Amazon の創業者です。彼が2010年プリンストン大学で『We are What We Choose』というタイトルで、GiftとChoiceについて語っています。Giftとは持って生まれた特性や天賦の才能、賢さや有能さで、それをどのように活かしてどのようなChoice、つまり選択をして生きていくのかが重要であり、例えば安定した職を捨てて本のインターネット販売を始めたベゾス氏のChoiceのように、時には果敢なChoiceをした方が良い、という話です。私はここでこのGiftという言葉に、天賦の才能という意味だけでなく、皆さんが過ごしたこの大学生活もあてはめてほしいと考えています。「大学で勉学に励む」というのはもちろん皆さんのChoiceの結果であることは間違いありませんが、同時に、多くの人々に支えられ、多くの知と経験をGiftとして与えられた場でもあったはずだと思います。それぞれの研究についてもそうでしょう。興味を持つことのできる分野を知ったことはもちろん、教授された学術的・技術的知識、周囲から得たアドバイスや示唆、思わぬ発見等はある意味Giftと言えらると思います。その上で自ら研究や実験の方針のChoiceを行い実行していくのが研究の推進です。そしてまた、そのような研

究推進を通して培った、物事の本質を明確に見極め、あきらめずに壁を乗り越え、自らの考えで行動する力や、「知を継承し、深化させ、新しい知を創造すること」・「持続可能な社会の実現に向けて、諸問題に積極的に取り組む国際的オピニオンリーダーとなり、また後継する人材を育てること」という本学の理念を具現化する力もまた、本学に在籍した一員として、皆さんの中にしっかりと身につけているはずであり、持って生まれた Gift と同様に、これからの皆さんの特性となるものであると言えます。自分の特性に誇りをもち、いかに活かして今後の人生を選び取り創造していくか、それを常に考えていただきたいのです。

3月の震災以降、日本国内は国難ともいえる状況が続いています。世界に目を転じれば、環境問題をはじめとする地球規模の危機が眼前に迫っています。エネルギー問題、地球温暖化やそれによる異常気象、環境破壊、人口急増による食料不足問題等、すぐに取り組まなければならないたくさんの課題が複雑に絡み合っており、我々科学者の力を試しているのです。こうした諸問題に対して、最高学府である大学・大学院において知を得た皆さんはどのような選択をしますか？ 何もせず何も考えず、楽な道を選びますか？ それとも更に深く広く知を進め、これらの課題を解決して持続可能な社会を作るべく、研究者・技術者として真摯に取り組みますか？ 安全な殻にこもって、見て見ぬふりをしますか？ それとも皆さんが今までこの大学で続けてきた努力や得たものに誇りをもち、信念を持って、人類の未来を担うことのできる人材としてグローバル化した社会に役に立つ努力をしますか？ 我々は、皆さんが真実を追求するための強い心と広い視野を持った真の研究者・技術者として、日本やそれぞれの母国、ひいては国際社会の期待に応えうる人材となるよう、全力を注いでまいりました。そして今、自信を持って皆さんを送り出したいと思っております。

皆さんの人生は皆さんが選ぶものであり、皆さんの価値は皆さんが決めるものです。これから人生の次のステップに進むにあたり、心身ともに健康で、それぞれの道で悔いのないようご活躍されることを心より祈っております。そして今後も、本学の更なる発展と後輩達のため、同窓会活動などを通じてご支援くださいますよう併せてお願い申し上げ、ここに告辞とさせていただきます。

平成23年9月21日

東京農工大学長 松永 是